

第九回 阪南市『すべての教室へ新聞を』

川柳・作文コンクール 表彰式 次第

一、開式の辞

一、優秀作品表彰

一、記念撮影

一、最優秀川柳・作文発表

一、主催者代表挨拶

一、来賓代表挨拶

一、主催者代表及び来賓紹介

一、閉式の辞

第9回阪南市「すべての教室へ新聞を」運動促進に向けた川柳募集要項

1. 主催 公益社団法人日本新聞販売協会近畿本部 府下南部支部 阪南市新聞販売協議会

2. 後援 阪南市教育委員会（申請予定）

3. 主旨

日本新聞販売協会（日販協）は、子どもたちの学力低下・活字離れが指摘されるなか、文部科学省の後援を受けて地域の新聞販売店から最寄りの学校へ新聞を届ける『すべての教室へ新聞を』運動を進めています。

この川柳募集は、日販協近畿地区本部府下南部支部阪南市販売協議会が各新聞社と日販協の協力を受けて、日ごろから子どもたちが新聞に親しみ、記事を読んで識見を深め、教育に新聞が役立つことを実証するために、実施します。

4. 募集対象

阪南市立小学校第4学年～第6学年の児童

5. 川柳の形態

(1) テーマは「新聞とひととのかかわり」とする。

テーマ例：新聞記者の気持ち、新聞を見る家族の様子、記者が撮影した写真を見て思ったこと等

(2) テーマに合致するものとし、自作で未発表のもの（すでに他で使用されたものを除く）に限る。

(3) 用紙は別添の川柳応募用紙を使用する。応募は1人1句とする。

(4) 応募用紙の学校名、学年、氏名（ふりがな）を記載すること。〈必ずふりがなを書くこと〉

6. 川柳の応募方法及び提出期限

応募方法：各校において提出する作品を10作に絞り、阪南市教育委員会事務局学校教育課に提出

提出期限：令和6年9月9日（月） 紙媒体で提出

7. 表彰等

受賞者及びその家族、学校関係者の出欠確認 令和6年10月上旬

表彰式 令和6年11月上旬予定 併せて各新聞紙上で発表

8. 表彰の種類

日本新聞販売協会賞（最優秀賞）

各社新聞社賞（朝日・産経・毎日・読売・日経）

阪南市新聞販売協議会賞

9. その他

(1) 応募作品については、原則として返還いたしません。

(2) 応募作品の使用・著作権は阪南市新聞販売協議会に帰属します。

(3) 上記三賞受賞者は、表彰式当日に記念写真撮影を行います。また、最優秀賞及び各社新聞社賞につきましては新聞社からの取材を受けていただくこともあります。また、その様子は各新聞に掲載されることもあります。

第9回阪南市「すべての教室へ新聞を」運動促進に向けた作文募集要項

1. 主催 公益社団法人日本新聞販売協会近畿本部 府下南部支部 阪南市新聞販売協議会

2. 後援 阪南市教育委員会（申請予定）

3. 主旨

日本新聞販売協会（日販協）は、子どもたちの学力低下・活字離れが指摘されるなか、文部科学省の後援を受けて地域の新聞販売店から最寄りの学校へ新聞を届ける『すべての教室へ新聞を』運動を進めています。

この作文募集は、日販協近畿地区本部府下南部支部阪南市販売協議会が各新聞社と日販協の協力を受けて、日ごろから子どもたちが新聞に親しみ、記事を読んで識見を深め、教育に新聞が役立つことを実証するために、実施します。

4. 募集対象

阪南市立中学校に在籍する生徒

5. 作文の形態

(1) 作文のテーマは「新聞とひととのかかわり」とする。

例：新聞記者になったら取り上げたいテーマ、今わたしが読みたい新聞記事 等

(2) 作文はテーマに合致するものとし、自作で未発表のもの（すでに他で使用されたものを除く）に限る。

(3) 用紙は400字詰め原稿用紙を使用する。（サイズは自由）原稿用紙の文字数は、400字以上800字以内とする。

(4) 原稿用紙の1行目には作文のタイトル、2行目には学校名、学年、氏名（ふりがな）を記載し、本文は3行目から記載する。（必ずふりがなを書くこと）

6. 作文の応募方法及び提出期限

応募方法：各校において提出する作品を10作に絞り、阪南市教育委員会事務局学校教育課に提出

提出期限：令和6年9月9日（月） 紙媒体で提出

7. 表彰等

受賞者及びその家族、学校関係者の出欠確認 令和6年10月上旬

表彰式 令和6年11月上旬予定 併せて各新聞紙上で発表。

8. 表彰の種類

日本新聞販売協会賞（最優秀賞）

各社新聞社賞（朝日・産経・毎日・読売）

9. その他

(1) 応募作品については、原則として返還いたしません。

(2) 応募作品の使用・著作権は阪南市新聞販売協議会に帰属します。

(3) 上記三賞受賞者は、表彰式当日に記念写真撮影を行います。また、最優秀賞及び各社新聞社賞につきましては新聞社からの取材を受けていただくこともあります。また、その様子は各新聞に掲載されることもあります。

第9回 阪南市 「すべての教室へ新聞を」運動促進に
 向けた川柳・作文コンクール

川柳入賞者一覧 (小学生対象)

賞	学校	氏名	学年	公表可否	備考
朝日新聞社賞	尾崎小	<small>ウチダ ナギ</small> 打田 凪	5	○	
阪南市新聞販売協議会賞	西鳥取小	<small>ヤブシタ コウタ</small> 藪下 昂大	4	○	
日本新聞販売協会賞 (最優秀)	下荘小	<small>ノモト マリカ</small> 野本 真里香	6	○	
日本経済新聞社賞	東鳥取小	<small>ナカタニ リオ</small> 中谷 凜音	5	○	
読売新聞社賞	舞小	<small>オオタ マサキ</small> 太田 真輝	6	○	
朝日新聞社賞	朝日小	<small>カワバタ ツバサ</small> 川端 翼	6	○	
毎日新聞社賞	上荘小	<small>タカハシ ミユキ</small> 高橋 美幸	6	○	
産経新聞社賞	桃の木台小	<small>サカモト カコ</small> 阪本 香子	6	○	

※本年度出品作品数 80 作品

作文入賞者一覧 (中学生対象)

賞	学校	氏名	学年	公表可否	備考
日本新聞販売協会賞 (最優秀)	鳥取中	<small>タナカ ミウ</small> 田中 美羽	1	○	
朝日新聞社賞	鳥取中	<small>イケダ アオイ</small> 池田 葵	1	○	
産経新聞社賞	貝掛中	<small>オオシマ ユリア</small> 大嶋 悠莉亜	2	○	
毎日新聞社賞	鳥取東中	<small>ミサワ コトミ</small> 三澤 琴未	2	○	
読売新聞社賞	飯の峯中	<small>ウエダ マナ</small> 上田 愛菜	3	○	

※本年度出品作品数 27 作品

東鳥取

小学校

5

年

名前

中谷 凛音
なかつた りお

しんぶんし

みんなのりしー

記事になる

桃の木台

小学校

6

年

名前

阪本 香子
さかもと かと

読めるかな

家族の横から

のぞき見る

下荘

小学校

6

年

名前

野本 真里香
ののもと まりか

紙面見て

新たなことを

学ぶ朝

上荘

小学校

6

年

名前

高橋 美幸
たかはし みゆき

文字の世界

自ら飛び込む

紙の中

西鳥取

小学校

4

年

名前

藪下 昂大
やぶした こうた

読んだこと

どわすれしても

もう一度

朝日

小学校

6

年

名前

川端 翼
かわばた つばき

朝見れば

未来につながる

第一歩

尾崎

小学校

5

年

名前

打田 凧
うちだ なぎ

きらきらと

光る知識が

ふえる朝

舞

小学校

6

年

名前

太田 真輝
おおた まさき

記者たちの

熱い情報

今ここに

鳥取 中学校 1 年

名前 池田 葵
いけだ あおい

「未来の社会を作る新聞」

鳥取 中学校 1 年

名前 田中 美羽
たなか みう

「中学生がそれでも新聞を読む理由」

貝掛 中学校 2 年

名前 大嶋 悠莉亜
おおしま ゆりあ

「新聞「紙」」

鳥取東 中学校 2 年

名前 三澤 琴未
みさわ ことみ

「新聞と共に、より良く」

飯の峯 中学校 3 年

名前 上田 愛菜
うえだ まな

「情報化社会と新聞」

中学生がそれでも新聞を読む理由

鳥取中学校 一年 田中 美羽

夏休みに入ったある日、ふとりビソングにあ
 った新聞を手に取り、少し読んでみました。
 読んでいるうちに、新聞も読んでみると面白
 いということに気づきました。
 まず、新聞を読むといろいろな情報が手に
 入ります。毎日、世界で何が起こっているの
 かを知ることは、とても大事です。例えば、
 自然災害やスポーツの結果など、広い範囲の
 事柄が書いてありました。別のものでも読んで
 知っていた核廃絶の記事もあり、興味深く読
 むことができました。新聞を読むことで、自
 分が住んでいる地域のことだけでなく、他
 の地域や国のことについて考えるようになり
 ました。そして、なぜこんなことが起きてい
 るのか、自分たちは何をすればいいのかにつ
 いて考えるきっかけになります。
 次に、新聞にはいろいろな意見が載ってい
 ます。社会問題や政治のことについて、みん

な	が	さ	ま	ざ	ま	な	考	え	を	持	っ	て	い	る	こ	と	が	わ	か
り	ま	す	。	友	達	と	一	緒	に	新	聞	を	読	ん	で	、	感	想	を
言	い	合	う	こ	と	も	楽	し	い	の	で	は	な	い	か	と	思	い	ま
す	。																		
	ま	た	、	新	聞	を	読	む	こ	と	で	言	葉	の	勉	強	に	も	な
り	ま	す	。	新	し	い	言	葉	を	覚	え	た	り	、	文	章	の	書	き
か	た	を	学	ん	だ	り	す	る	こ	と	も	で	き	る	し	、	新	聞	を
読	み	な	が	ら	い	い	表	現	を	身	に	つ	け	る	と	、	作	文	を
書	く	時	に	も	役	立	ち	ま	す	。									
	つ	ま	り	、	新	聞	を	読	む	こ	と	は	大	人	に	な	る	た	め
の	準	備	な	の	で	す	。	将	来	、	社	会	に	出	た	と	き	に	は
多	く	の	情	報	の	中	か	ら	自	分	で	判	断	す	る	力	が	必	要
で	す	。	だ	か	ら	、	中	学	生	の	う	ち	か	ら	新	聞	を	読	ん
で	、	幅	広	く	学	ぶ	こ	と	は	と	て	も	大	切	に	な	っ	て	き
ま	す	。	こ	れ	か	ら	も	新	聞	を	読	み	、	世	界	の	最	先	端
の	こ	と	を	知	り	、	視	野	を	広	げ	て	い	き	た	い	と	思	い
ま	す	。																	

未来の社会を作る新聞
 鳥取中学校 一年 池田 葵
 私は毎日、学校で新聞を読みます。そこに
 は、政治、経済、スポーツなどさまざまな記事
 があり、今、世の中で起こっている出来事
 を知ることができます。私は、新聞を読むこ
 とは大切なことだと考えます。
 なぜなら、新聞は情報が正確だと言われて
 いるからです。近年は、インターネットの発
 達によって、誰でも情報を発信し、それを見
 ることができるようになりました。誰でも発
 信できるということは、嘘のニュース、いわ
 ゆる「フェイクニュース」も入ってきてやすくな
 ります。実際に、「〇〇」をすると病気にか
 からない「や」「〇〇」を飲むと病気が治る「な
 どのフェイクニュース」が原因で死者が出てし
 まったこともあります。しかし、新聞は情報
 が正確と言われているので信用すること
 ができます。
 そして、新聞には情報の正確さ以外にもい

いところがあります。例えば、「見やすさ」
 です。新聞は、一枚の紙に複数の記事があり
 一つ一つが区切られています。見出しの文字
 が太字になっていて、どんな記事が載ってい
 るのかわかるので、どこから読もうか自分で
 決められます。本文も見やすい明朝体を使用
 され、お年寄りにも読みやすくなっています。
 さらに、私達、中学生にとって、新聞は今
 の社会の姿について知る絶好の機会となりま
 す。例えば、環境に関する記事を読むことで
 自分にもできることはないかと考えるように
 なります。新聞を通して社会を知り、考える
 ことで、未来の社会へとつなげることができ
 ます。こうして、将来、私達が社会を変えて
 いけるのではないのでしょうか。
 新聞には、たくさんのおいしいところがありま
 す。これからも、ネットニュースばかりだけ
 でなく、新聞を読み続けていきたいです。

新聞外結ぐ私たちの絆
 貝掛中学校二年大嶋悠莉夏
 私たちの生活に欠かせない存在とばかり
 新聞。その役割は、単に情報を伝えるだけ
 にとどまりません。新聞は、私たちに
 とりのつなかりを深めてくゆる大切なメディア
 了なのです。
 新聞は私たちの生活に密接に開かれ、こま
 め毎朝新聞を開くことで、世界の出来事
 や地域の話題も知ることもできます。そして
 与ゆるの情報を通して、私たちは社会との接
 点を一つにすることで、例えば、地域
 の新聞を読むことか身近な人々の暮らしぶり
 や、地域の課題に、これを知ることできます。
 そして与ゆるの情報を共有し合うことで、地
 域コミュニティの一員としての意識が芽生え
 ることができます。また、国内外の出来事を知るにと
 り、私たちは世界情勢への関心を深めていき
 ます。そして、その関心が他者への思いやり
 や、平和への願いにつながり、こころのこころ。

新聞と共に、より良く

鳥取東中学校 二年 三澤琴未

私の学年では、授業のはじめに、今日の新聞の内容を話してくれる先生がたくさんいます。国内や海外のニュース、悲しい話題がうれしい話題まで、色々なジャンルの情報を知ることが出来ます。休憩時間のソワソワがぬけない中でも、静かに聞いている人が多いです。その後、新聞の内容について意見がとびかう時間が私は好きです。家でも新聞を読む

のですが、自分の意見とクラスの人の意見が違ふときがあります。以前は、なぜその意見になっただのか考えもせずにその意見に反対していました。ですが新聞を読む中で正解のない記事があり、違ふ意見にもなぜその意見になっただかを考えることが出来るようになりました。きつと、新聞の記事についてクラスのみんなが言う時間があつたおかげです。

私を成長させた新聞の良さはもう一つあります。それは見出しです。目次を見て、気に

なる記事までめぐっている時に、見出しにひ
かれて、目的以外の記事を読むことがありま
す。見出しには工夫がっまっていきます。でき
るだけ短く、興味を引くような文。それにひ
かれて他の記事を読み、色々な情報を得られ
ます。今は、誰でも情報を流せるようになり、
AIが発達して何が本当かわからない社会に
なっています。その中で、複数の目で何回も
見直し作られている新聞は、正確で社会をひ
っぱっていくメディアです。私たちはそれを

活用し、共に社会をひっぱっていきたいです。

私たちに今必要なことは、学校の勉強と新
聞の確かな情報だと考えます。確かな情報を
得て、学校で勉強したことをつなげていくと、
自分自身を高めることができます。そんな人
が増えて、より良い社会になったらいいなと
思います。そのためにも、新聞の良さを私か
ら、もっと伝えていきます。

情報化社会と新聞

阪南市立飯の峰中学校 三年 上田 愛菜

今の日本は情報化社会だ。そう聞いたとき

私はあまり、びんと来なかった。情報化社会

とは何なのかが分からなかったからだ。しか

し、私が一年ほど前に初めてスマートフォン

を使った時、その情報化社会を実感できた。

SNSやネットニュースなどは、マップする

だけで多くの情報が、手に入る。しかし、し

ばらくして、出てくる記事が以前見たものに

関連したもののばかりであることに気づいた。

これでは手に入る情報がたまたまのばか

りになってしまふ。

私は以前から毎日ではないが、新聞を讀ん

でいる。新聞は必ずしも興味のあることが書

かれていくわけではない。読んでいて、つら

くなるような記事もある。けれど、それらす

べての記事を讀むように強制しないのが新聞

のいいところだと思う。私たちは、新聞を讀

むとき、手に入れる情報を取捨選択できる。

ある人は全ての記事を読むかもしれない。干
 しじ欄だけを見るのかもしれない。経済欄の
 株価を見る人もいるかもしれない。色々な人
 の手に届くのは同じものでも、そこから得る
 ものは人それぞれだ。そして、そこに優劣は
 ない。新聞は読む人のことを一番考えられて
 つくられている。そのなかで一人でも多く情
 報を伝えるにはどうしたら良いのか日々もが
 いているのだらう。その気持ちには情報も飛び
 交う今の日本で必要なものでは無いのだらう

が。